

とちぎの森林・ 林業・自然環境

01 栃木県の森林

栃木県には、どれくらい森林があるの？ 01-01

人工林と天然林ってなんだろう？ 01-02

02 代表的な樹木

針葉樹：スギ・ヒノキ・アカマツ 02-01

広葉樹：コナラ・クヌギ・ブナ 02-02

03 「林業」ってなあに？

林業は、こんな仕事です。 03-01

林業では、こんな道具を使います。 03-02

04 栃木県の林業

木材やキノコなどの生産 04-01

4つの林業地 04-02

05 森林のはたらきと保安林

森林のはたらきには、なにがあるの？ 05-01

保安林ってなんだろう？ 05-02

06 「木」ってなんだろう？

「木」ってどのようにできてるだろう？ 06-01

「木」の良さってなんだろう？ 06-02

07 森林はなぜたいせつなの？

自然界のつながり「生態系」 07-01

栃木県の鳥獣 07-02

ヒトにとっての森林 07-03

森林と環境をつくり守る林業・木材産業 07-04

08 森林やみどりを守ろう

森林やみどりを守るとり組み。そして栃木県では... 08-01

身近なとり組み、ボランティア活動！ 08-02

● 木を伐ることは悪いことなの？

りんむぶ
栃木県林務部

森林

森林

植物の集団のうち、樹木が優占している集団を「森林」といいます。

林業

林業は、森林を維持し改良しながら、木材・タケ類・きのこ類などの林産物を商品として生産する産業です。

シート 01

栃木県の森林

シート 08

森林やみどりを守ろう

森林生態系



シート 02
代表的な樹木

シート 03
「林業」ってなあに？

シート 04
栃木県の林業

林業

伐採

伐採

植林

森林生態系の模式図

森林に生きる生物（植物、動物、菌類など）同士の間や、生物以外の環境（水、土、大気、太陽エネルギーなど）の間には、上図のようにつながりがあります。

このような、森林のなかで、たがいにつながって生きていく様子を「森林生態系」といいます。

シート 07

森林はなぜたいせつなの？

シート 05

森林のはたらきと保安

森林のめぐみ

二酸化炭素の吸収・洪水や水不足をふせぐ・木材の生産などの様々な「森林のめぐみ」は、私たちの生活を支えています。

シート 06

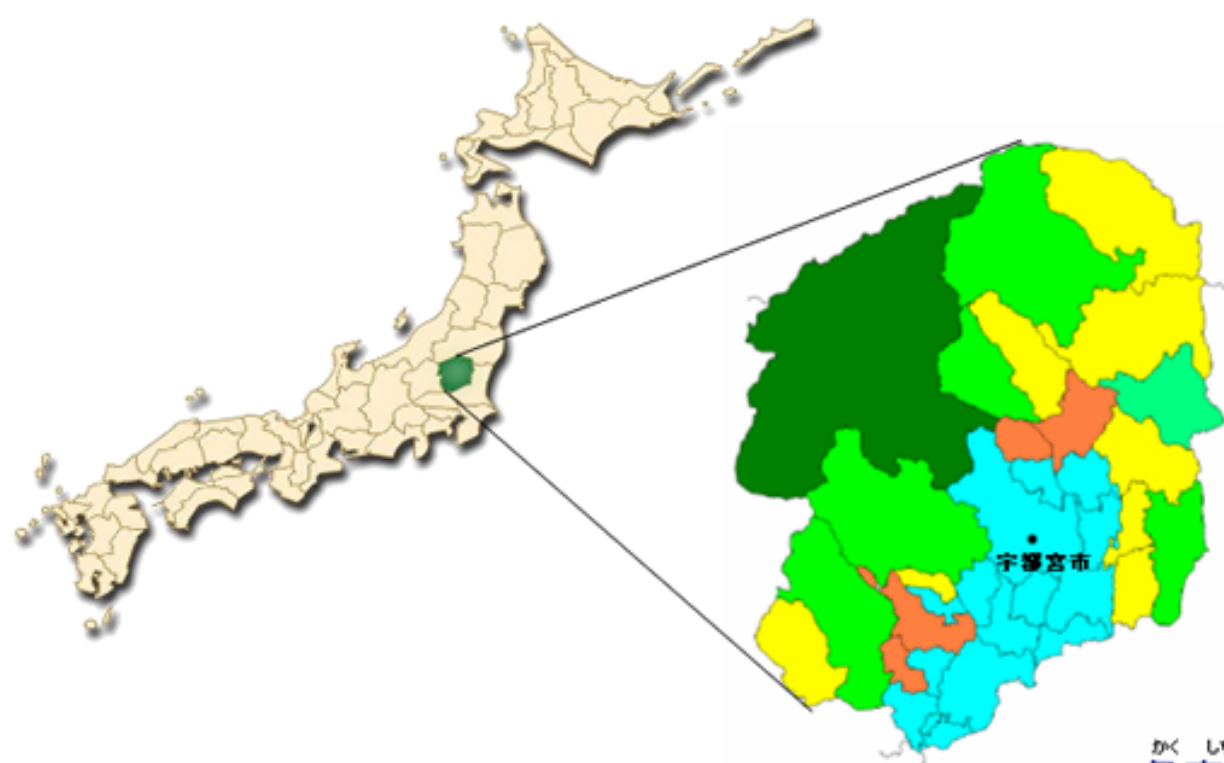
「木」ってなんだろう？



森林のめぐみ

01-01 栃木県には、どれくらい森林があるの？

わたしたちがすんでいる栃木県には、森林がどれくらいあり、また、森林がしめる割合や、世界の森林面積はどれくらいでしょうか？



各市町村の森林率



栃木県の森林面積※1 350,028ha
県土面積の約55% (森林率※2)

全国の森林面積※1 2,512万ha
国土面積の約67% (森林率※2)

世界の森林面積※1は 約39億ha、陸地面積の30%、
アジア全体では森林面積※1 約5.5億ha、森林率18%、
南米全体では森林面積※1 約8.9億ha、森林率51%です。

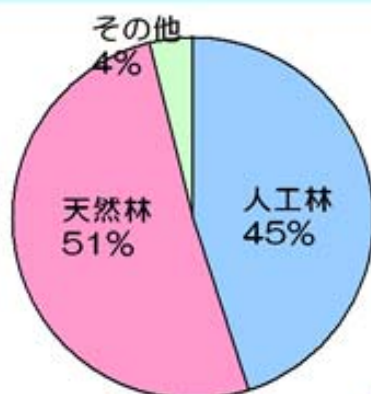
※1 数値は全国 (H14.3月)、栃木県 (H16.3月)、世界、アジア、南米 (H12)

※2 森林率：森林面積を全ての土地の面積で割ったもの

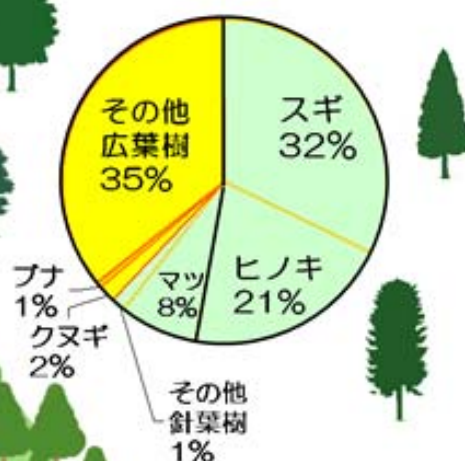
01-02 人工林と天然林ってなんだろう？

県内に生育している主な樹木はどんな種類で、また、「人工林」と「天然林」とは、どんな森林をいうのでしょうか？

栃木県の人工林・天然林の割合



栃木県に生育する樹木の
種類別面積



関連シート

シート 03
代表的な樹木

天然林



まわりの木から落ちたり、動物が運んできた種が芽を出し、そのまま自然に育った森林を天然林といいます。

天然林は、人間がつくった人工林とはちがい、はえている木の種類や年れいがちがうので、遠くから見たようすもさまざまです。

人工林



人が種をまいたり、木を植えて育てている森林を人工林といいます。主に木材を生産することを目的としてつくられた森林です。

人工林には、スギやヒノキなどの同じ種類の木が植えられることが多いので、遠くから見ると、そろってまとまったようすをしています。

02-01 しんようじゅ
針葉樹：スギ・ヒノキ・アカマツ

それぞれの樹木がつくる森林のすがた（針葉樹林）

スギ林



ヒノキ林



アカマツ林



葉のかたちや実・花

スギ



ヒノキ



アカマツ



栃木県の人工林の約5割がスギ。

雨の多い場所で良く育つ。

古くは電柱用、板材として植えられている。葉は線香の材料になる。

東照宮へ向かう日光街道などには、江戸時代に植えられ樹齢300年をこえる「杉並木」がある。

日本で最も高い木になり、幹がまっすぐ天を突くことから、直木（すぎ）が「スギ」になったといわれている。

栃木県の人工林の約3割がヒノキ。

やや乾燥地の山腹で良く育つ。

材は光沢があり、香が良く、長持ちするので、柱材、土台材、板材などの建築用材として使われている。代表的な建物に法隆寺（奈良県）がある。

古くから魚、肉、キノコなど生ものの防腐用として葉を利用している。

この木で火をおこしたので、火の木という名前が付いている。

まつくい虫の被害が多く、人工林の面積の

5%にも満たない。乾燥したやせ地の峰部や平坦地に育つ。針のような葉が2本ずつ付いている。実は卵形で翌年の秋に熟す。いわゆる「松ぼっくり」。材は建築用や土木用として使われている。

マツタケは、秋、よく手入れされた松林に発生する。名前は、幹が赤いことからついている。

02-02 広葉樹：コナラ・クヌギ・ブナ

広葉樹林のすがた

広葉樹林の紅葉（天然林）



※天然林については

シート 01 栃木県の森林
01-02人工林と天然林
ってなんだろう？

葉のかたちや実・花

コナラ



日当たりのよい、山野に普通に現れ、大きいものは20～30mに達するものもある。葉は卵を逆さにした形で、ふちはギザギザがある。長さ7.5～14cm、幅4～6cm。樹皮は灰色がかった白で、タテに長く浅いさけ目がある。小型のほっそりしたどんぐりが秋になる。

古くは、木炭、薪などの燃料用として使われていたが、現在はシイタケ原木としての利用がほとんどである。コナラは、オオナラに対する名前。※オオナラはミズナラの別名

クヌギ



里山の平地林に植林したものも見られる。葉は長い楕円形で、ふちはギザギザがある。樹皮は灰色がかった褐色で、タテに深く裂け目が入る。丸く大きいどんぐりが翌年の秋に熟す。コマやどんぐり笛ができる。材は木炭、シイタケ原木として知られている。

名前は、国木がなまったものといわれる。として使われる。

栃木県のシンボルとして県木、県獣、県花、県鳥が選ばれています。県木と県花は樹木です。どちらも広葉樹ですが、どんな木が選ばれているか調べてみよう。

※県獣、県鳥については

シート 07 森林はなぜたいせつなの？
07-02 栃木県の鳥獣

ブナ



県内では、比較的奥地に自生するので、馴染みが少ない。日光・那須・塩原などの山岳地に自生する。葉は楕円形で、ふちは波状。長さ5～10cm、幅3～6cm。樹皮は灰色がかった白で、なめらか。ソバの実に似た実は、赤みがかった褐色で食べられる。材は、建築用、家具用、船舶用、パルプ

03-01 林業は、こんな仕事です。



森林組合など山で働く人

- ①苗木の育成(スギ、ヒノキなど)
- ②地ごしらえ(植林場所をつくる)
- ③植林※
- ④下草刈り
- ⑤つる切り
- ⑥除伐(じょばつ)※
- ⑦間伐(かんばつ)
- ⑧枝打ち
- ⑨伐採(ばっさい)

循環！

①～⑧の作業をして、1本の木を伐採するために、40年以上かかります。

最近では、木材のねだんが安いので、手入れをしないで放置されている森林が多くなっています。

また、これらの仕事はきげんが多く、山で働く人は高れい化しているので、後(うしろ)の者を育てるのも大切なことです。

※植林: 栃木県では、1畝(100㎡×100㎡) 当たり3000本程度植えます。

※除伐とは、植林したもの以外の木を切ったり、成長不良な木を切ることを言います。

国や県では

健全な森林を育て、木材の利用を進める林業の発展を支援しています。

森林を育てる仕事を能率的に進めるために林道をつくったり、木を植え、育て、利用して、ふたたび木を植え、育て、利用して、ふたたび木を植えることをくり返して、健全な森林づくりを支えている林業の発展を支援しています。

また、木材を大切に長く使うことは、二酸化炭素を長い期間その中に閉じこめておくことになるため、木材が多くの人に利用されるよう木の良さをPRしています。



03-02 林業では、こんな道具を使います。



刈払機（かりはらいぎ）
下刈りするときに使います。



鎌（かま）
地拵えや
下刈りに使います。



鉋（なた）
細い木を切ったり、枝を切り落とすとき
（枝打ち）に使います。
山で働く人には必需品です。



チェーンソー
伐採や伐採した木の枝を落とす枝払い、伐
採した木を一定の長さにする玉切りなど、
林業で使用する代表的な機械です。



枝打ちノコギリ
ナタで切るには太すぎたり、幹を傷つけない
ように枝を切るときに使います。
木工用とは刃がちがいます。

高性能林業機械

1つの機械で、複数の作業（伐採+造材+集材など）
ができる機械です。

ハーベスタ



フォワーダ



フォワーダ

丸太をつかんで荷台に
集め、丸太を目的の場
所まで運搬します。



ヘルメットや手袋



ハーベスタ

伐採作業と、枝を払って、一定の長さの丸太に
切る作業と、切った丸太を積んでおく作業をこ
なします。

04-01 木材やキノコなどの生産

林業は、森林で林産物：木材、きのこ、たけ、山菜^{りんさんざつ} を商品として生産する産業で、特に木材生産が古くから盛んな地域が「林業地」と呼ばれています。

現在は、木材だけでなくキノコなどの生産も盛んに行われています。

木材



伐採された木は丸太にして森林組合や民間の市場に運搬されます



角材や板材は家などの材料に使われます



丸太は市場で商品として並べられ、一番高い値段を付けた人が買っていきます



丸太は製材工場で、角材（柱材）や板材（壁・床材）に加工されます

キノコ

キノコは農家や林家の収入を得る手段の一つとして県内で広く生産されています。一番多く生産されているのはシイタケで約3,900トン、次にマイタケが約800トンとなっています。



シイタケの栽培
(写真は太田原市の栽培施設)

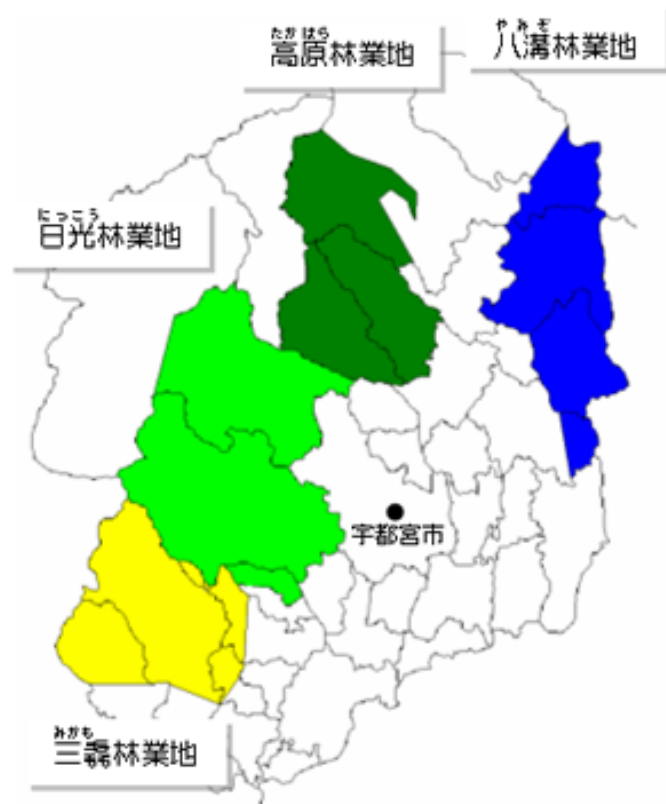


マイタケの栽培
(写真は那須烏山市の栽培状況)

04-02 4つの林業地

栃木県には、日光・八溝・高原・三義の4つの林業地があります。

林業地には、主にスギ、ヒノキが植えられます。



林業地の状況

日光林業地

日光林業地は、鹿沼市、日光市及び西方町の2市1町からなり、面積は約6万4千ヘクタール（県土面積の10分の1）で、栃木県最大の林業地です。

古くから林業が盛んで、日光東照宮の建設と江戸への水運の便があったために、人工造林が盛んになったといわれていて、300年以上の古い木もあります。

八溝林業地

八溝林業地は、大田原市、那須烏山市、那須町及び那珂川町からなり、面積は3万2千ヘクタールで、日光林業地と並んで栃木県を代表する林業地です。

日光林業地より規模は小さいですが、歴史は古く、江戸時代から人工造林を行ってきました。

高原林業地

高原林業地は、矢板市を中心に那須塩原市、塩谷町の2市1町からなり、面積は1万8千ヘクタールです。

日光や八溝にくらべて規模も小さく、若い木が多い林業地です。

三義林業地

三義林業地は、足利市、佐野市、岩舟町の2市1町からなり、面積は3万3千ヘクタールです。

南部は歴史が浅いですが、東部の旧田沼町、旧葛生町は古くから人工造林が行われてきました。

05-01 森林のはたらきには、なにがあるの？

木が生えてないと困るよ！

山崩れがおきた！

土砂が流れ出た！
森林がないと表面の土が流れてしまいます

洪水が！
森林がないと雨水のしみこみが少なくて、一気に流れてしまいます

健康な木がないと・・・

二酸化炭素を
取り込んで
酸素を作る
地球温暖化を防ぐ
役割もあります

みんなが楽しむ場所になる
ハイキングや森林浴など

洪水や水不足
を防ぐ

雨は、スポンジ
みたいな森林の
土に吸い込まれて
地下水となって
時間をかけて
少しずつ川に流
れます

野生動物の
すみかになる

山崩れを
防ぐ

木の根が土を
しっかりつか
まえてくれて
います

健全な森林

木材を生産する



05-02 保安林ってなんだろう？



森林がいろいろなはたらきを持っていることはわかったね。

うん、よくわかったよ。

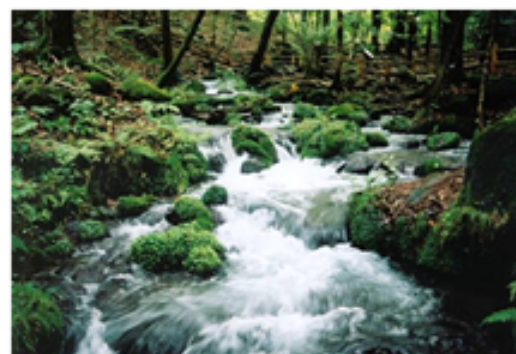


だから、



豊かな森林がないと山崩れの原因になります

山崩れが起きないように



豊かな森林があると安定して下流に水が供給されます

洪水や水不足が起きないように

特に重要な役割を果たしている森林は、法律で保安林に指定されています。

指定された保安林は、伐採や開発が制限され、保安林としてふさわしい働きをするように整備が進められます。

保安林は全部で17種類あります

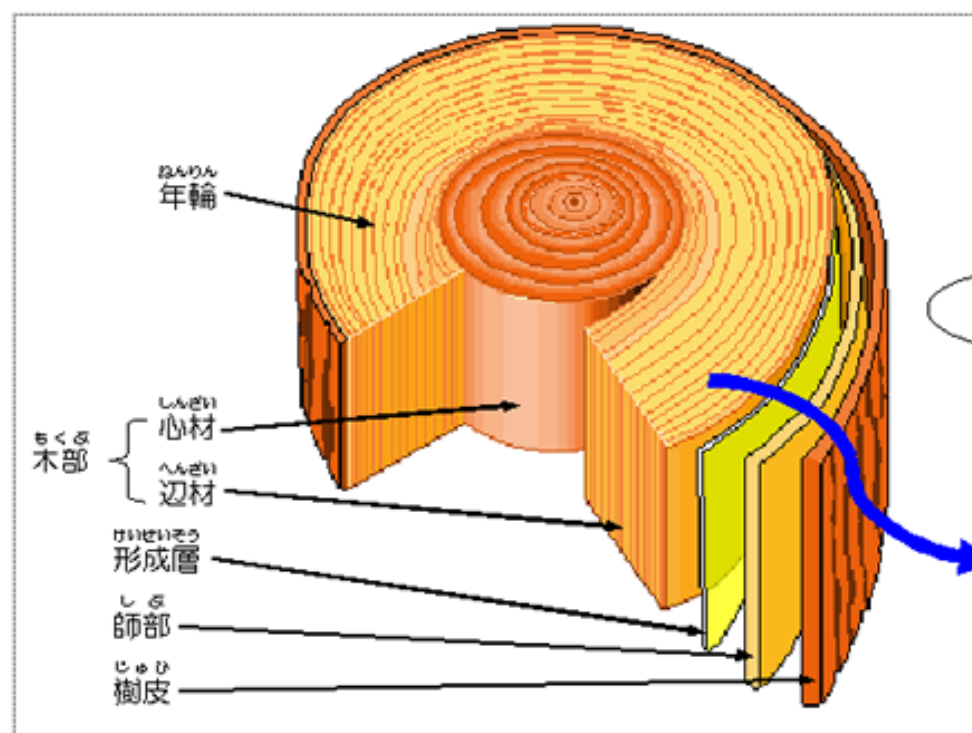
栃木県では、水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、干害防備保安林、土砂崩壊防備保安林、風致保安林、水害防備保安林、防風保安林、落石防止保安林の9種類の保安林が指定されています。



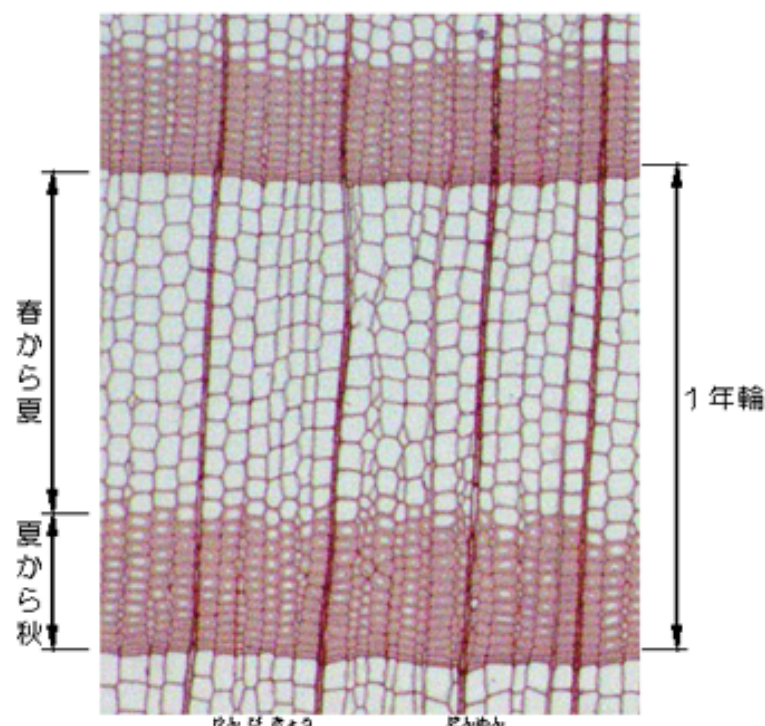
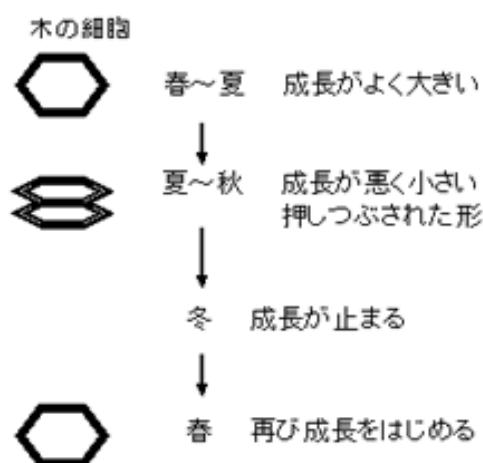
06-01「木」ってどのようにできてるだろう？

○ 木と草のちがいは何でしょうか。

- ・ 木は茎のなかの木質部がよく発達し、年とともに太くなり年輪をつくります。
- ・ ひとつひとつの細胞のかべ（細胞壁）がとてもがんにょうにできています。
- ・ 草は茎のなかのやわらかく、あまり発達しないので、大きくなりません。



○ 季節によって細胞の成長のしかたが変わることで、年輪ができます。



06-02 「木」の良さってなんだろう？

見た目のあたたかさ

木は紫外線をよく吸収してくれて目に優しく、橙を中心にして赤から黄色の範囲の色で見た目にあたたかく感じます。

年ごとの成長ムラによる年輪のゆらぎが木目となって、人に心地よさを与えてくれます。



きぎよくてき んよう
規則的なシマ模様



ねんりん びんよう んくめちよう
年輪の微妙な木目模様

木のさわりごこち

あたたかさ

木は中空の細胞からなり熱を伝えにくいので、鉄をさわったときとちがってあたたかく感じます。

鉄と木材をさわってくらべてみよう！

コンクリートと木材の床でとびはねてみよう！

やわらかさ

床の上を歩くとき、コンクリートと比べるとやわらかく、クッションの役割をしてくれるので疲れません。

なめらかさ

ガラスをさわったときのなめらかさとちがって、木は手がふれたときに手の水分を吸収してくれるので、サラサラとしたなめらかな感じになります。

ガラスと木材をさわってくらべてみよう！

木のかおり



ヒノキ風呂

木の香りがイライラをおさえ、リラックスした状態をつくれます。

香りの成分を取り出して、
芳香剤、入浴剤、防カビ剤、殺ダニ剤
など積極的に利用されています。

音響効果

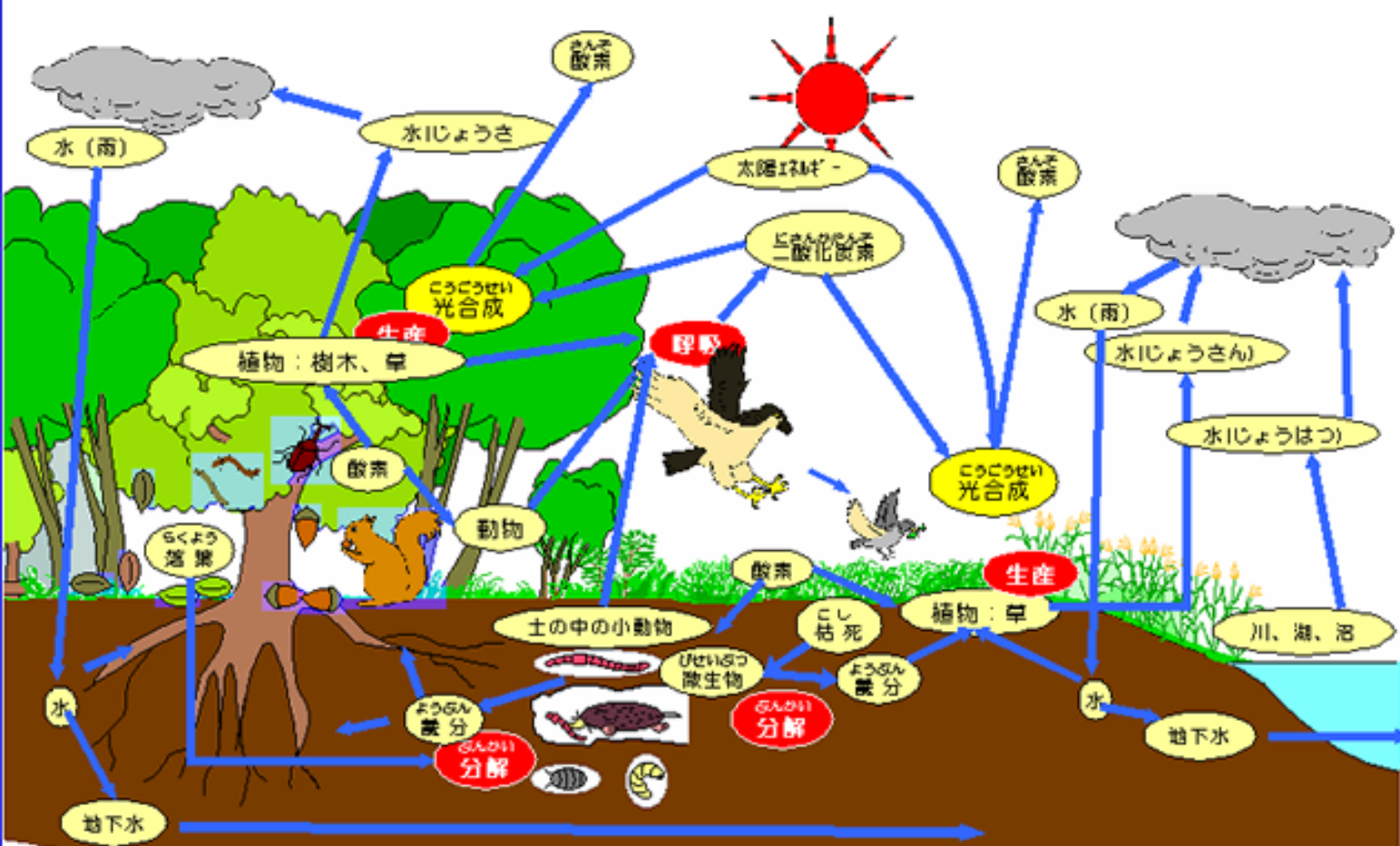
木は音を適度に吸収し、きれいに響かせる性質があります。低音・中音・高音をバランスよく吸収して、適度に音が残るためです。

木材を利用した音楽ホールが全国各地につくられ、安らぎの音環境が生まれています。

07-01 自然界のつながり「生態系」

環境とは、土や水、地形や気候とそこで生きている生物（動物、植物、昆虫など）すべてをとりまくもので、その環境や環境と生物、生物同士の間にはつながりがあります。

自然界におけるこれらの関係やつながり全体を生態系といいます。



生態系（陸上）の模式図

たくさんの生物の生存を可能にする自然環境

たくさんの種類の生物が生息するためには、森林や草原、湿地、川など変化に富んだ環境が必要です。ヒトも含めたあらゆる生物は、その中でおたがいにつながりあいながら生きています。

07-02 栃木県の鳥獣

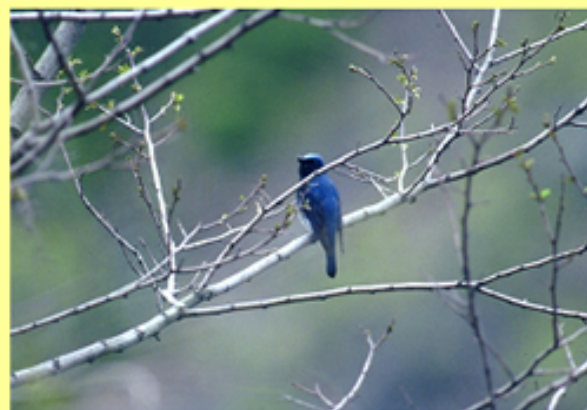
栃木県には、日本を代表する自然の景勝地である日光国立公園をはじめとして、8つの県立自然公園があり、また、県中央部の鬼怒川や那珂川などの大きな河川を中心に田園と平地林が作りだすゆたかな平野がひろがっています。

本県の自然環境は、山岳、河川、湖沼、湿原など変化に富んでおり、多くの種類の野生鳥獣が生息しています。

県内で普通に見られる鳥の種類は170種前後で、その他に渡り鳥を含めると約300種が確認されています。森林ではウグイス、草原ではホオジロなど環境に応じて色々な種類の鳥が生息しています。

県鳥であるオオルリは主に沢ぞいの森林に生息しており、木のこずえでさえずっているのが見られます。市街地や里山では、ヒヨドリ、メジロ、ヒガラなどが見られます。

とちぎの鳥類



オオルリ



メジロ

県鳥: オオルリ 県民に野生鳥獣の理解と愛護の精神を高めてもらうため、県鳥が選ばれました。オオルリはウグイス、コマドリとともに日本三大鳴鳥の1つで、5月頃南方から渡ってきて、10月初め頃まで日光、塩原、那須等の渓谷に多く生息しています。雄は美しい瑠璃色で姿もよく、栃木県を代表する鳥としての条件を備えています。

昭和39年1月17日告示

県の北部や北西部の山地帯には、ミズナラやブナの落葉広葉樹林、コメツガなどの常緑針葉樹林が広がり、大型ほ乳類のツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンザル、県獣であるニホンカモシカなどが生息しています。里山では、タヌキやキツネなど中型のほ乳類や、ニホンリスなどの小型のほ乳類が生息しています。

とちぎの獣類



ニホンカモシカ



ツキノワグマ

県獣: カモシカ 県民に野生動物の理解と愛護の精神を高めてもらうため、県獣が選ばれました。ニホンカモシカは、体はシカよりやや小さく、オス・メス両方に短い角が生えています。県北西部の山地の奥深くに生息し、性格はおとなしく、草や木の葉などを食べています。日本固有のウシ科の動物で、特別天然記念物に指定されている貴重なものであるため、本県を代表する獣として県獣に指定されました。

昭和39年1月17日告示

07-03 ヒトにとっての森林

多くの種類の生物が生きていくには豊かな自然環境が必要です。そのなかでも森林は、地球上の大気や水のつながりを保つうえでも重要な役割を果たしています。そうした地球規模での森林のはたらきによって、ヒトをはじめ多くの生物が生きていくことができる地球環境が保たれています。

人間の生活も様々な面で森林に依存し、森林を利用してきました。

森林のはたらき

森林の色々なはたらきについては

→ シート 05 森林のはたらきと保安林

森林の利用

レクリエーション利用

森の空気を浴びる森林浴は、私たちを健康にします。

☆ 森の緑の色 目におだやかな感じを与え、心を落ち着かせます。

☆ 森の空気 きれいなのでおいしく感じます。木や草から発散(はっさん)されるフィトンチッドが関係しています。



木材の利

世界の森林に依存する我が国

日本人の日常生活で使われている木材は、海外の森林から生産されたものが多くをしめています。

例えば、住宅の柱などに使われている木材の7割が外材(外国産)です。また、本、ノート、ティッシュペーパー等の紙製品は、その原料(パルプ、チップ用材)の9割が外材となっています。タンス等の家具には合板が使われていますが、その合板用材のほとんど(99%)が外材です。



世界的にみた森林の減少に人間はどうすべき?

日本が依存している世界の森林は、過剰な伐採や開発により減少しています。

森林の減少が進行すると、木材不足、洪水や水不足、地球温暖化・砂漠化の進行など、ヒトや野生動植物の生存に関わる地球規模の問題を深刻化させるおそれがあります。

森林を将来にわたって維持できるような利用方法で、そして環境にやさしい利用方法で森林を利用する必要があると考えられてきています。

07-04 森林と環境をつくり守る林業・木材産業

木材がほかの地下資源などに比べてすぐれているのは、再生することができるという点です。

林業は、森林から木材を収穫したら、また新たに苗木を植え、育てて再び森林をつくります。木材の中には、空気中から取り込んだ二酸化炭素(CO₂)が、貯めこまれています。ですから、CO₂が閉じこめられた木材を、長く、たいせつに利用し、その間に新しい森林がまた空気中のCO₂を貯めこむということが、地球温暖化を防ぐ効果的な対策につながります。

森林をつくり、育て、守りながら利用すれば、森林資源はなくならないし、環境のためにもなります。つまり、林業・木材産業は「森林と環境をつくり守る産業」なのです。



木材は、環境にやさしい資源といえますが、日本人の日常生活で使われている木材は、海外の森林から生産されたものが多くを占めています。輸送距離の長い外国との木材貿易には、輸送に大きなエネルギーが使われるので、地球環境にやさしくありません。

地元の森林から生産された木材を、日常の生活で使った方が、もっと環境にやさしいといえます。

08-01 森林やみどりを守る取り組み。そして栃木県では…

森林を守るために、各地で様々なことが取り組まれています。

青森県から秋田県にまたがる「白神山地」や鹿児島県の「屋久島」は世界遺産に登録され、保護活動が行われています。

栃木県内でも、いろいろな取り組みがあります。ここでは、日光杉並木の保護について紹介します。

栃木県の例

日光杉並木保護

総延長37kmにわたる日光杉並木街道には、今もなお樹齢300年を超える杉が約1万3千本残っています。

けれども、この杉並木の生育環境の悪化や杉自身が老齢化しているため、年間約100本の杉が枯れており、本数が年々減少しています。

貴重な財産といえる杉を守り、未来に引き継いでいくために、杉並木は色々な形で保護されています。

杉並木保護対策の例（木柵工）



植物は、地中の水や養分を根から吸収します。杉の根元が道路をつくるためなどで掘り下げられると、根を張る空間がなくなるとともに、杉の根元の土が更に雨などで流され、根が剥き出しになることもあります。このような状態になると、生育に必要な水や養分を十分吸収できなくなり、杉が弱ってきます。

杉の根元に木の柵をつくって、土を埋め戻す「木柵工」によって、根を保護し杉の生育が図られています。

ほかにも、穴のあいたコンクリートのブロック（ポカラ）を地中に入れて、杉の根が張る空間をつくったり、根がのびる範囲（街道の後ろ側約20m）の土地を県が買いあげて、開発などから守る対策などが進められています。

けれども、それには多額の費用が必要になります。

そのため、多くの人からの寄附金や、杉並木の杉を1本1千万円で購入してもらって基金に積み立てる「オーナー制度（購入した杉は伐採できません）」、緑の募金など、杉並木保護のためにたくさんの方が協力しています。

08-02 身近な取り組み、ボランティア活動！

県内各地で、いろいろな人が森林や自然を守るために行動しています。ここでは、そうした活動を紹介します。また、森林やみどりのために活用されている「緑の募金」に協力することも、それらを守ることににつながります。

森林ボランティア活動



全国的に森林ボランティア活動は増えてきています。栃木県内でもそうした活動をする機会が増えており、また、森林ボランティア団体もできています。いろいろな人が、県内の森林を守り育てるために、植栽、下刈り、間伐などの森林づくりに汗を流しています。

緑の少年団活動



学校や、学校のまわりにも、たくさんの森林や緑があります。緑を守り、育てる活動が「緑の少年団活動」です。

写真はシカ食害防止ネット巻き(日光)

シカは樹木の樹皮をはがして、樹皮や樹皮の内側のあま皮を食べることがあります。食べられた樹木は枯死することがあり、それを防止するために、樹木の幹にネットを巻きます。

景観保全活動



那須街道における「とちぎふるさと街道景観里親団体」(那須町の高久小、那須小等)のボランティア活動により、みどり豊かなふるさとの景観を守り伝えていきます。

経済・環境・文化・社会などいろいろな面で地域をささえる森林のはたらき。

森のめぐみをみなさんの子や孫の世代まで残し、森とともにくらしていくためには、どうすればいいか。みんなで考えてみましょう。

木を伐ることは悪いことなの？

人の手で植えられたスギやヒノキなどの人工林は、適切に管理して、元気のある森林に育てないと、その働きが十分に発揮できません。元気な森林をつくるために、「間伐」は大切なことですし、柱や板などに使いやすい太さに成長した木を伐って、若い木に植え替えることも必要なことです。

元気がない森林

手入れをせず放っておくと、木が十分に成長できず「もやし」のようになってしまいます。



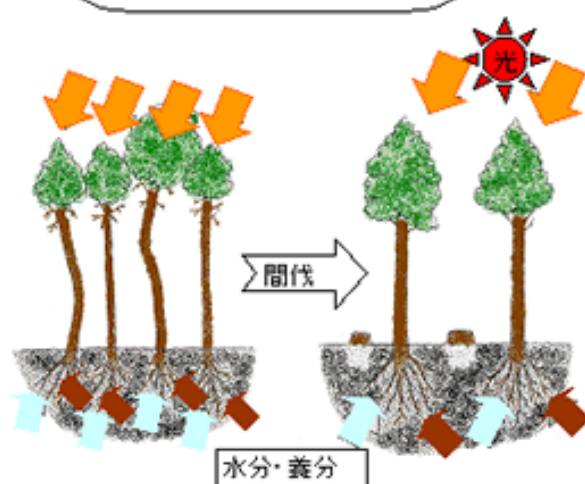
地面に草などの植物がなくなってしまう。



地面の土が流れてしまい、水をためる力も土砂くずれを防ぐ力もなくなっています。

間伐とは、一部の木を伐って、木と木の間隔を広くするように本数を減らすことです。

間伐



元気な森林



林の中の地面に光が届き、いろいろな植物が茂った森林。その落ち葉などが積もり、ふかふかのスポンジ状の土になっています。

元気な森林は、水を育んだり、土砂くずれを防ぐなど、森林の持ついろいろな働きを、十分に発揮することができます。

このように、森林を元気な状態に保つためには、間伐が必要です。

関連シート

→ 05-01 森林のはたらきにはなにがあるの？

木の家は「第2の森林」

木は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸って大きくなります。ですから、木材はその二酸化炭素を閉じこめておくことになるので、木材を使っている限り、二酸化炭素が空気中に戻ることはありません。

間伐して育てられたスギやヒノキなどは、計画的に伐採され、伐ったあと木材として利用され、私たちの生活に役立つとともに地球環境を守っています。

街の中に建てられる木の家は、「第2の森林」とも言われています。



関連シート

→ シート07-01 自然界のつながり「生態系」



CO₂: 二酸化炭素 C: 炭素



森林を元気な状態に保つためには、使いやすい太さに成長した木を伐って、伐ったあとは、「若い木を植えて育てていく」ことが必要です。

木を植え、育て、木を伐り、再び木を植えることをくり返す、このサイクルを続けることで、森林の持つ力が続けて発揮され、環境が守られるのです。

そのために、木を伐って利用することは、私たちにとって大切なことです。